

熊本県立宇土高等学校 令和元年度(2019年度)学校評価表

1 学校教育目標
<p>熊本県教育委員会の「平成31年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「平成31年度人権教育取組の方向」等を中心に据えながら、本校建学の精神である「質実剛健」のもと99年の伝統を継承しつつ、中高一貫教育校として新たな発展と創造をめざす。</p> <p>全職員は教育者としての自覚と使命感、教育的愛情と人権感覚を持ち、資質と指導力の向上に努め、生徒一人ひとりの個性を伸ばしながら、知・徳・体の調和が取れ、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、たくましく生きる力を備えた将来のリーダーとなる青年の育成に努める。</p> <p>中高一貫教育校としての利点を生かし、効果的な教育のあり方を研究するとともに、地域との連携をより一層深め、地域に開かれた特色ある学校づくりに努める。</p>

2 本年度の目標
<p>①全職員が資質と指導力の向上及び授業改善に努め、生徒一人一人を理解しその個性を伸ばしながら、知・徳・体の調和が取れ、自ら学び考え行動する、逞しく生きる力を備えた将来のリーダーを育成する。</p> <p>②中高一貫の6年間及び高校3年間教育課程研究を推進し、宇土校ならではの教育活動を展開する。</p> <p>③地域の小中学校等との連携をより一層深め、学校の見える化を図り地域に開かれた学校づくりに努める。</p>

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校改革の推進	生徒一人一人と向き合う時間確保の工夫	校務の精選と業務時間(日課)の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 日課を見直し、放課後の活動時間帯を広げる 校内連絡システム(Chat&Messenger)を活用して会議を削減する 学校評議員会と学校運営協議会の統合を図る 	B	7時限日の掃除を6限日の掃除延長で代替し、放課後の活動時間を生んだ。また評議員会と運営協議会の統合も図り業務の効率化を図ることができた。今後は運営協議会の組織体制・協議内容等の分析・検証が必要である。
		生徒一人一人の特性を生かした活躍の場の設定	授業改革への取組とリーダー養成	<ul style="list-style-type: none"> 職員の少人数グループによる授業法の研鑽 探究の問い・LOGICを中心とした、全教科全領域の授業改革 意見表明力の養成 ボランティア活動の充実 	B	授業理解度は0.5p上がり、78.4%だった。特に3年生は昨年(2年次)の79.8%から85.4%へと5.6p上昇した。学年間でも1年73.4%→2年76.4%→3年85.4%と上昇。探究の問いを中心とした授業改善は進みつつある。
	地域に根ざした特色ある中高一貫教育の推進	地域への丁寧な情報発信	後期選抜における志願倍率1.2倍	<ul style="list-style-type: none"> 高校説明会の内容の見直し HPデザインの見直し 中高6年間の教科指導のグランドデザインの点検・再設計 管内中学校への定期的な訪問と情報発信 	B	宇土中新聞・宇土高新聞を地域回覧板で全家庭に回覧することで、学校の教育活動を地域に発信できた。新教育課程の編成及び中高一貫教育の教科指導モデルは各教科で検討を進めている。
学力向上	自学力の育成	宅習時間の確保と定期考査の成績向上	<ul style="list-style-type: none"> 宅習時間の確保(高1・2年＝週1000分 高3＝週1500分) 定期考査の平均点の向上(全教科・科目で平均55点以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 宅習時間調査の充実(年4回) 行事の精選と考査前の学習時間の確保 	B	宅習時間について、1・2年の平日の宅習時間を伸ばす工夫が必要である。授業改善等により成績不振者数は前年度より減少している。

キャリア教育 (進路指導)	自己の発見とキャリアの基礎構築	自己の強み発見	自身の個性・強みを考えた目標設定度90%以上	・進路希望調査 ・年3回以上の面談の実施と各部会等での情報の交換	B	1年生は文理コース分けのガイダンスを行い、2年生は今年度から3学期に巡回面談を行った。
		将来を見通したキャリア構想	職業を見据えた進路目標の設定度90%以上	・各大学オープンキャンパスへの参加、インターシップ、企業訪問、卒業生による合格体験談	B	オープンキャンパスや学びの部屋、1日看護体験等に多くの生徒が参加し、職業意識を高めることができた。
	一人一人の進路目標の達成	進路意識の向上	進路LHR、進路講話等の満足度90%以上	・進路学習の充実、進路講話、各種講演会 ・大学の出前講座	B	体系的な進路学習と、講演や出前講座により進路目標への意欲を高めることができた。
		進路実績	第一希望合格を目指し、難関大学20名受験を含む国公立大学100名合格	・Nステ・ゼミ・特別講座の実践、模試の計画と詳細な分析 ・進路検討会、業者の研修会・模試分析会参加 ・面談等の実施	B	進路検討会は資料や説明を工夫した。AO入試・推薦入試では昨年より国公立大合格者数は減少したが、小論文や面接指導を全職員で取り組むことができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	服装・あいさつ・時間厳守の徹底	全職員による生徒指導と生徒に寄り添った配慮ある対応の実践、充実度80%以上	・遅刻月3回以上者指導 ・学年集会時の整容検査と事後指導の徹底 ・生活委員会によるあいさつ運動の実施	B	遅刻者は学期に3回以上が2名と少ない数ではあるが指導できた。服装検査も学期に2回、再検査まで徹底出来た。挨拶運動はPTAと協力して実施出来たが、委員会の取組が不十分であった。
		交通ルールの遵守とマナーの向上	交通ルール遵守率80%以上、交通事故・苦情0件	・職員、交通委員会の定期的な交通指導 ・啓発用のチラシの作成と掲示 ・交通安全教室の実施	B	交通指導は引き続き徹底を図らなければ、事故2件、自転車通学生への苦情も多い。地域住民の方から信頼されるよう努力したい。
	自主性や社会性及び公共性を身につける	生徒会中心の行事の運営	生徒会主催の行事の企画・運営の充実、アンケートによる満足度90%以上	体育祭、文化祭、クラスマッチの見直しと、より一層の充実	A	体育祭、文化祭ともに見直しが出来て、大変充実した行事が出来た。
		各種委員会活動の活性化	目標の明確化、生徒自ら動く委員会活動の実践、達成感90%以上	・生徒会執行部の主体による各種委員会の開催と合同会議の企画・立案 ・各種委員会の主体的な活動による活性化	B	学校行事おける活動は充実しているが、各委員会独自の活動が継続出来ていない。

人権教育の推進	命を大切に する心を育 む指導	生徒自身が自己 を大切にし、他 人を思いやり、 いじめや差別を 許さない態度の 育成	人権意識、自尊感情 の向上、自己肯定感 90%以上	全教科・全領域におい て、教師はもちろん生徒 相互間でも認め褒め励ま す教育活動に取り組む	B	他者を思いやる生徒が 多く、悩みを抱えても、 教師、生徒間でサポー トし合える体制がある。
	職員研修 の充実	人権教育の基本 的認識の確認と 実践力の向上	・職員研修の実践、 校外の研修に全員参 加、人権教育に関す るレポートの作成 ・いじめや差別事象 発生時において危機 管理マニュアルを活 用した迅速な対応	・教育実践の相互研鑽を 行い、人権問題に関する 深い認識と実践力を併せ 持った教職員集団づく りに取り組む ・危機管理マニュアルの 周知徹底を図る	A	・校外への研修は、人 数制限や他の職務の調 整ができず、うまく運用 できなかった。レポート 研修は、今後の提出に ついて検討中である。 ・危機管理マニュアルに ついては周知徹底はで きた。
特別 支援 教育	特別な支 援を必要と する生徒へ 的的確な 対応	生徒の特性に合 わせた支援	・生徒理解を踏まえ た適切な支援の実践 ・個別の教育支援計 画及び指導計画を基 にした支援の充実 ・不登校傾向の生徒 への支援と、カウンセ ラー室の効果的な活 用	・特別な支援を要する生 徒に対する全職員の共 通理解を図り、環境整備 に努める ・保護者やSC、SSWを始 め外部機関とも協力・連 携を図りながら、サポー ト会議やケース会議を開 催するなど、組織的な支 援を進める ・外部講師による職員 の研修を実施する	A	・特別支援教育委員会 を実施し、支援が必要 な生徒の状況について 情報を共有できた。・巡 回相談を活用し、対応 の仕方等について助言 をもらい支援につなげ た。・別室登校生徒へ の支援体制を充実させ ることが必要である。
		ストレス反応を 示す生徒への支 援	・SCとの定期的な面 談の実施 ・関係機関への引き 継ぎ	・学校や寮、また家庭な どの生活環境に起因す るストレス反応を示す 生徒をSCやSSWにつな ぎ、ストレスへの対処 方を学ばせる	A	寮生、学校生活になじ めない生徒等をSCにつ なぎ、SCの先生から細 やかな助言をいただく ことができた。
いじ めの 防止 等	いじめ防止 委員会主 導による啓 発	いじめを未然に 防ぐため、また 無くすために必 要な主体的な態 度の育成	・人権意識、自尊感情 の向上、いじめ0 (いじめ解消率 100%) ・いじめの早期発見 早期対応	・いじめ防止通信を年6 回発行する。いじめに 関するアンケートを年 2回実施。心のきずな を深める月間及び人 権週間では人権作文 等を読み、いじめを 早期に発見するた めのアンケートを 実施する	A	・通信は4回の発行と なった。アンケートは 2回の実施。また、心 のきずなを深める月 間及び人権週間では 作文等を読み、標語 などの作成を実施し た。・アンケートの 実施はできた。結果 への対応もできた。
	職員研修 の充実	いじめに関する 基本的認識の周 知徹底と生徒理 解力の向上	教職員が主体的に いじめ問題について 考えることができる (アンケートへの回 答100%)	いじめに関するアン ケートを分析した結 果を共有することで、 研修効果を高める	A	すべての職員へ分析 を出せなかった。デ ータの共有をスムー ズに行えるようにし たい。(集計等も含 めて)

地域連携 (コミュニティスクールなど)	地域に開かれた特色ある学校づくり	コミュニティスクール(総合型)への移行を図る	学校評議員会と学校運営協議会の統合・移行についてマスタープランの作成	・学校評価に関するアンケート結果の検証と対策 ・宇土市防災計画と本校役割との摺り合わせ ・総合型運営協議会への移行について、運営委員による具体的研究 ・評議員会・運営協議会への諮問	B	学校運営協議会については、(防災型)から(総合型)への緩やかな移行について研究を進め、宇土市と災害時の避難所利用に関する基本協定書を締結することができた。災害時対応マニュアル・家庭での防災教育について今後研究を進める。
			各種行事をとおした地域への参加率(連携率)の向上	・地域ボランティア・行事の広報と周知 ・参加に対する柔軟な対応	A	生徒の、地域行事へのボランティア参加意欲は高い。課題研究を通じた地域とのふれあいも進みつつある。
			HP・ブログの改善による配信の充実	・HPトップページのリデザイン ・ブログ入力方法の周知 ・見やすいHPへの改良	B	HPの見やすいデザイン、シンプルなアクセスという点ではまだ改善の余地がある。CMSの特性を生かしたデザイン及び更新方法を今後も研究する必要がある。
図書館活動	読書活動の活性化	図書館の利用者数の増加	1日当たりの図書館来館者数160人以上	・校内読書月間の実施 ・特設図書コーナーや展示の工夫 ・広報誌『らいぶらりいたいむず』の定期的発行 ・HPブログでの情報発信	A	1日当たりの図書館来館者数は183人で目標を達成した。『らいぶらりいたいむず』を12号、新着図書案内を15号発行し、HPブログに11回掲載し、読書推進に向けて取り組んだ。
SSH	第二期実践型、研究開発課題「未知なるものに挑むUTO-LOGICで切り拓く探究活動の実践」の構想具現化	UTO-LOGICを備えた人材育成の評価方法を開発する	生徒対象にL・O・G・I・C5観点を問う学校独自問題「ロジック・アセスメント」の開発	2学期実施に向け、SSH推進委員を中心に教科と連携して開発する。ロジックルーブリック、LOGICガイドブックとの関連性も強化する	B	ルーブリック及びガイドブックの充実及び関連性の強化に対し、ロジックアセスメントの開発に要する時間確保が不十分であった。
			探究活動を評価するロジックルーブリック、ロジックチェックリスト開発	第一期に開発した評価をもとに研究開発を推進する。パフォーマンス評価を重視した評価方法を開発する	B	評価方法の研究が進められている反面、評価方法の共有や理解を図る機会や研究の設定が不十分であった。
	全校体制で展開する探究活動の実践及び探究の視点を授業に入れた、探究の「問い」を創る授業、教科の枠を越えた授業の実践	探究活動及び探究の「問い」を創る授業の実践の見える化”可視化”教科の枠を越えた授業の開発	職員の指導方法及び生徒の成果を可視化する機会を多く設定する	職員の研修・成果発表会実施、研究集発行、LOGICガイドブック開発、ロジック探究基礎、GS課題研究の開発	A	探究活動の指導について全校体制で展開することができた。成果に対し、難しさを抱えている場面でのフォローアップの方法が課題である。
			探究の「問い」を創る授業、教科の枠を越える授業の実践を共有する機会を設定する	公開授業(夏:教科の枠を越える授業、冬:探究の「問い」を創る授業)及び職員研修(探究活動の指導方法)を実施する	B	各教科科目の授業設計や実践に関する情報交換する機会が増加した。成果に対し、学校内で授業研究する時間設定の困難さが課題であった。

中高一貫教育	宇土校ならではの中高一貫教育プログラムの充実	中高接続を踏まえたカリキュラム・マネジメントの実施	現在のカリキュラムの効果を検証し、次期学習指導要領を視野に入れた教育課程を研究する	教育課程研究委員会で具体的に検討する	B	本年度は具体的な取組までは至っていないが、現カリキュラムの課題等については議論を深めることができた。
		中高連携した学校行事・生徒会活動の充実	体育祭、文化祭等の合同行事における一体感の醸成と、満足度90%以上	・生徒会を中心とした行事の工夫と実践、全校集会の活用 ・保護者(PTA)と一体となった行事の工夫	B	生徒会を主体とした学校行事はより充実したものとなった。PTAからも積極的な支援をいただいた。

4 学校関係者評価

- ・学校紹介のビデオを見たが、子供たちの表情が本当に良かった。とても子どもらしいと思う(勉強ばかりではないですね)。このような子供たちを前にすると、学校のいろいろなことについて直接子供たちと話をしてみたい。話す中で、子供たちは本当に「宇土校が好きなんだな」と感じると、我々も別の機会で宇土校の話をする場面が増えると思う。
- ・国公立大学の合格者数の半分は中学入学の生徒(2クラス)で、残り半分が高校入学の生徒(4クラス)ということですが、このことについては今後どのように対策していかれますか。
- ・中高一貫校としての宇土校なので、中学進学と高校進学でのクラス分けだと思うが、互いのコミュニケーションをできるだけ取っていただき、よりよい関係性を保って欲しい。またリーダー育成も大切なことだが、今後地元をリードし、地元を大切にしていけるリーダー作りにも力を入れて欲しい。
- ・学力向上において、授業の満足度＝理解度と判断できるか検証してもらいたい。理解度を数値で表せないだろうか。
- ・ホームページが見つらいので、学校行事の情報提供など、もっとわかりやすくできないだろうか。
- ・評価表の各項目を全職員で自己評価しているが、各部署での業務内容の理解不足から、評価が甘くなっているのではないか。
- ・なかなか表に出てこない生徒たちも、それぞれの子供たちの内発的動機付けへの関わり方で変わるチャンスが必ずある。私が学校評議員やPTA役員等で関わらせていただいていることで、何かお役に立てるのであればぜひお声かけいただきたい。
- ・アンケートの中で、「全く当てはまらない」と回答している生徒、保護者が一定数いるのが残念である。ポジティブな意見が過半数だが、ネガティブな意見が半数近い項目もある。
- ・魅力ある学校となるよう、PTAも協力できればと思う。

5 総合評価

学校経営においては、日課の見直しや業務の整理、精選を進め、職員が生徒と向き合う時間の確保に努めた。また、生徒募集に関しても、回覧板の活用、中学校への募集要項の持参など、地域への丁寧な情報発信を行った。

SSH事業では、資質・能力の育成に重点を置いた探究型授業に全職員で取り組み、年2回実施の公開授業には全国から多数の視察があった。授業アンケートでは、90%以上の生徒が「大変満足」または「ほぼ満足」と回答しており、学年が上がるほど「大変満足」の割合が高い。取組が一定の成果を上げているものと評価できる。

職員の自己評価では、特別支援教育やいじめ防止に関する項目の評価が高かった。SCやSSWなど外部機関との連携、ケース会議の開催、いじめ防止に関する各種取組等が効果的に実施できたものと判断できる。評価表には具体的項目が28項目あるが、A評価が9項目、B評価が19項目であった。

6 次年度への課題・改善方策

中学校の自己評価(27項目中19項目がA、8項目がB)と比較すると、全体的に厳しい評価となった。高校は職員数が多く、特定の校務分掌の業務経験が長い職員も多い。分掌間のコミュニケーション不足もあり、可もなく不可もなくといった評価の一要因になっていると思われる。部署の活性化という観点からも、流動性を持たせた人材配置が必要だと思われる。

生徒募集については、高校入試においてわずかながらも募集定員を志願者が上まわる結果となったが、引き続き在校生の満足度を上げる取組と地域への魅力発信をしっかりと行っていかねばならない。受け手の側にたった情報発信を心がけていきたい。